聖霊降臨節第4主日（赤）

主日礼拝

2025年6月29日　10時20分～

司式:
奏楽:

≪神の招き≫

前　　奏	『天にまします我らの父よ』J.S.バッハ
招　　詞	詩編148編3節
賛 美 歌	54

≪神の言葉≫

祈　　祷	聖霊の照らしを求める祈り
聖　　書	イザヤ書60章19～22節（旧約1146頁） フィリピの信徒への手紙2章12～18節（新約355頁）
こども説教	
交読詩編	詩編67編1～6節（75頁）
賛 美 歌	Ⅰ－374
説　　教	「 この世で星のように輝く 」　八木浩史牧師
祈　　祷	
賛 美 歌	397

≪感謝の応答≫

信仰告白	使徒信条
献　　金	
祈　　祷	献金当番
主の祈り	（週報表紙、ホームページ掲載）

≪派　遣≫

頌　　栄	29
祝　　福	
報　　告	
後　　奏	

礼拝当番:　　（役員:　　）　献金当番:
音響:　　映像:

■■■　調布教会は2026年度に創立80周年を迎えます！　■■■

「 この世で星のように輝く 」

『イザヤ書』の60～63章は、第三イザヤの中心となる箇所です。バビロン捕囚から帰還したものの、エルサレムの復興は進まず、経済的社会的困難と宗教的苦しみの中にあった人々へ、第三イザヤは希望のメッセージを告げます。60章10～22節では、諸国民がエルサレム復興を助けて平和の都の再建に至り、さらには終末的な表象によって嘆きの日々の終結がもたらされるというのです。その時、イスラエルにとって、太陽や月が光や明かりとなるのではなく、「主がとこしえの光」となり、暗闇も嘆きもなくなります。神への背きの罪ゆえに滅ぼされたイスラエルは、不思議にも「皆、正しき者」とされるのです。

『フィリピの信徒への手紙』は、使徒パウロが創立したフィリピにある教会へ、獄中から手紙として書き送ったものです。パウロが投獄されたことで、フィリピの信徒たちは気落ちし、信仰が弱まりそうになっていました。しかし十字架に架けられた主イエスは、そのことによって高く上げられ、天に座する栄光をお受けになられたのです。ゆえにパウロも迫害を恐れていません。パウロは「私が供え物として（血）が注がれることになったとしても、私は喜びます」とまで言うのです。フィリピの信徒たちも、この信仰を共にして、キリストによる救いを共に喜びなさいと勧めます。世には神から引き離そうとする暗闇が覆っています。神の救いから離れると、心が暗闇に囚われてしまいます。しかし信仰によって「この世で星のように輝き」、喜びと希望をもって、世で明るく歩むことができるのです。